

# 2 植物の分類(1)

## 身近な植物の分類 果実をつくる花のつくり 裸子植物と被子植物

月 日

### 1 身近な植物の分類

植物には、花がさくものやさかないもの、実がなるものやならないものなど、さまざまな種類がある。

### 2 果実をつくる花のつくり

(1) 花のつくり 多くの花は、外側から順に、がく・花弁・おしべ・めしべでできている。→①

- ① **めしべ** 中央に1本ある。
  - ・**柱頭** めしべの先端の部分。花粉が付きやすい。
  - ・**子房** めしべの下部のふくらんだ部分。
  - ・**胚珠** 子房の中にある小さな粒。
- ② **おしべ** めしべのまわりに数本ある。→植物によって数がちがう。
  - ・**やく** おしべの先にあるふくろ。
  - ・**花粉** やくの中に入っている粉のようなもの。
- ③ **花弁** おしべのまわりを包んでいる。
- ④ **がく** 花弁の外側にある。→花弁やがくのない花もある。

(2) **受粉** 花粉がめしべの柱頭につくこと。→②

- ① **果実** 受粉の後、子房は成長して果実になる。
  - ② **種子** 受粉の後、胚珠は成長して種子になる。
- (3) **種子植物** 花がさき、種子をつくる植物。種子をつくるにはおしべ(花粉)とめしべ(胚珠)が必要である。

### 3 裸子植物と被子植物

- (1) **マツの花のつくり** 雌花と雄花の区別がある。→③
- ① **雌花** りん片には、むき出しの胚珠がついている。
  - ② **雄花** りん片には、花粉のうという花粉が入ったふくろがついている。→花粉のうは、被子植物のやくにあたる。
  - ③ **マツの受粉** 花粉が直接胚珠につく。→種子は受粉の翌年の秋にできる。
- (2) **裸子植物** 胚珠がむき出しの植物。→子房がないので、果実はできない。

例 マツ、スギ、イチヨウ、ソテツなど→針葉をもつのは裸子植物。

(3) **被子植物** 胚珠が子房に包まれている植物。→果実ができる。

例 サクラ、アブラナ、エンドウ、タンポポ、フジなど

(4) **被子植物の分類** 葉脈という葉のすじや根のようすなどから2つのグループに分けることができる。→④

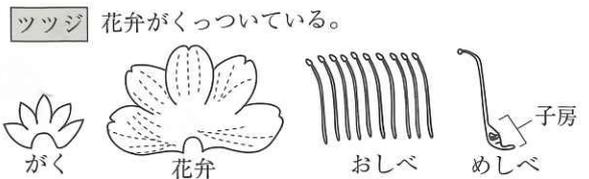
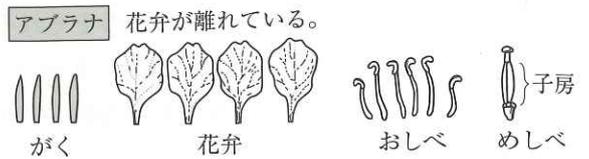
① **単子葉類** 葉脈が平行に通る、子葉が1枚で、ひげ根をもつ被子植物。

例 トウモロコシ、スズメノカタビラ、イネ、ササなど

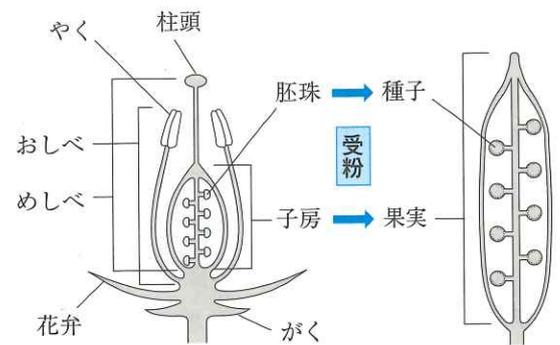
② **双子葉類** 葉脈が網目状に通る、子葉が2枚で、主根と側根をもつ被子植物。→主根…1本の太い根。側根…主根からのびる細い根。

例 ヒマワリ、アサガオ、サクラ、アブラナなど

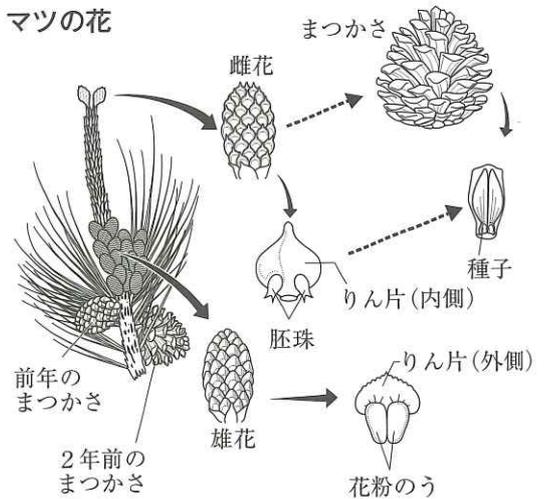
### 1 花のつくり



### 2 種子と果実



### 3 マツの花



### 4 単子葉類と双子葉類

	単子葉類	双子葉類
子葉	1枚	2枚
葉脈	平行	網目状
根	ひげ根	主根 側根 主根と側根